

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

計画名 Plan	非晶質ナノ粒子研究の深化に向けた国際会議への参加と研究発表
氏名 Name	池田 賢太
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	理学研究科化学専攻博士後期課程 1 年
渡航国 Country	アメリカ合衆国
渡航日程 Travel schedule	2025 年 12 月 14 日 ~ 2025 年 12 月 22 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航では、研究のさらなる発展と国際性の向上を目的として、環太平洋国際化学会議 Pacifichem 2025（以下、本学会）に参加した。本学会は、世界各国から化学分野における多様な専門を有する研究者が一堂に会する国際会議であり、最新の研究動向を把握するとともに、国際的な視点から自身の研究を見つめ直す貴重な機会であると考えた。

本学会において、私は自身が研究を進めている新規非晶質ナノ粒子に関する研究成果について発表を行い、国内外の研究者と直接議論することで、研究内容の妥当性や今後の課題について多角的な意見を得ることを狙った。特に、異なる研究背景や専門分野を有する研究者からの指摘を通じて、これまで十分に検討できていなかった視点や、新たな研究展開の可能性を見出すことを目的とした。また、多分野にわたる研究発表を幅広く聴講することで、新たな発想や実験技術を吸収し、今後の研究の発展につなげることも本渡航の重要な目的であった。

さらに、本学会には多数の国から研究者が参加しており、異なる文化的背景をもつ研究者と英語で互いの研究内容を説明し、専門的な議論を行う経験を積むことも重要な目的の一つであった。これらの交流を通じて、将来的な国際共同研究や継続的な学術交流へと発展しうる人的ネットワークの構築と自身の国際性の成長を目指した。

成果 Outcome

1. 自身の研究成果の発表について

12 月 16 日に Hawaii Convention Center にて開催された Multicomponent Nanostructures: Novel Synthesis, Rational Design, And Materials Discovery のシンポジウムにてポスター発表を行った。当日は数百人の発表者および聴衆が一堂に会した非常に活気にあふれる会場であった。

今回のポスター発表では、新規非晶質ナノ粒子に関してこれまで論文としてまとめた研究成果を報告するとともに、現在進行中の別プロジェクトについても報告した。1時間30分の発表時間中に、日本国内外の研究者8人と議論を交わし、非常に有意義な時間を過ごすことができた。また、議論をした研究者のうち半数の方は日本語話者ではなく、英語で自身の研究について議論することになった。自身の考えを十分に伝えられないもどかしさから自分の英語能力の未熟さを痛感した一方で、事前に十分な準備をしていった部分については研究の意図や課題、成果を的確に伝えることができ、有益なアドバイスをいただくこともできた。さらに、本学会が広い分野の研究者が参加していたこともあり、自身が普段参加する学会では出会えない研究者と議論することもでき、研究について多角的に捉え直す良い契機となった。



ポスター発表会場の様子

2. 他者の発表を聞いての情報収集について

学会はハワイ時間の12月15日から20日までの6日間にわたって開催されており、多数の研究発表を聞くことができた。初めての海外学会参加であったため、英語での発表やプログラムの急な変更などに戸惑う場面もあったが、全体として充実した日々を過ごすことができた。

聴講した発表の中でも、ジョージア大学のSmith氏の研究が特に印象的であった。同氏は自作のマイクロリアクターを用い、同時に数百万通りの合成実験を実施可能なシステムを構築していた。合成プロセスそのものではなく、合成装置の開発に主眼を置いた研究は自身にとって新鮮であり、今後の研究を考える上で大きな刺激を受けた。

今後の展望 Prospects for the future

今回の滞在を通じて、非常に幅広い分野にわたる最先端研究に触れることができ、自身の知識の拡充につながっただけでなく、世界各国の研究者と協働しながら今後さまざまな研究課題に挑戦したいという強い動機付けを得ることができた。今後は、ポスター発表の際に指摘を受けた点について検討を進めるとともに、本学会で得た知見を自身の研究に取り入れ、より発展的な研究に取り組んでいきたい。

また、滞在期間中を通じて、英語での発信力や研究遂行能力をはじめとする自身の能力不足を改めて強く実感した。今後はこれらの課題を克服し、研究者として国際的に活躍できる人材となることを目標に、継続して研鑽を積んでいきたいと考えている。

最後に、このような機会を得るためにご支援いただいた大学院教育支援機構に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。